



～お葬儀屋さんのひとりごと～

葬儀の事前準備

最近では、直葬や家族葬など様々な葬儀形式があります。どのような形式で葬儀を執り行うか、ご家族で事前にご相談される事をお勧めします。

また、ご本人の意向を尋ねておくことも大切です。ご自身の思いやご希望をご家族などに確実に伝えるために、エンディングノートなどをご活用されてはいかかでしょうか？

エンディングノートとは、人生の最終章を迎えるにあたりご自身の思いやご希望をご家族などに確実に伝えるためのノートです。

最後のセレモニーをご自分の希望通りに執り行ってもらうために・・・、残されたご家族が困らないように・・・、いざという時に備えてあなたのメッセージを残しておきませんか。

ふくし葬祭・光琳会館では、エンディングノートを無料でプレゼントしています。ご希望の方は当社までご連絡ください。ご自身のエンディングノートの所在は、必ずご家族などにお伝えください。

また、エンディングノートの内容は、必要に応じて更新されることをお勧めいたします。

お葬式では、遺影用のお写真が必要となります。遺影は、その方らしさが表れているお写真が良いでしょう。お写真の洋服は、デジタル処理で着せ替えが可能です。

ご家族やご親戚・ご友人などの連絡用名簿を作成しておきましょう。お知らせする方々のリストを作成しておく、いざという時にすぐに連絡を取ることができます。

納棺する際にお着せする衣服などを用意しておきましょう。また、愛用されたものをお棺の中に入れることもありますので、準備しておきましょう。ただし、可燃物に限ります。

時間的に余裕があるならば、葬儀社と葬儀について事前相談をしておく、と安心です。

葬儀に対する希望や予算などを伝えて、見積書を作成してもらいます。葬儀費用の概算を知っておけば、安心して葬儀を依頼することができます。また、その費用を準備しておくことも可能です。

葬にまつわる体験談集

■ もっと知ってりゃよかったものを [女性 32歳]

「お葬式の心積もりや段取りなんて、しておくものじゃないよ。まるで『待ってました』みたいじゃないの」と、父の見舞いに訪れた遠い親戚の人に言われ、「そんなもんかな」と、ヘンに納得したのは、4年前の父の亡くなる数日前だった。しかし、いざ亡くなってしまうと、忙しいのなんのって…。こればかりは経験してみなくちゃ分からない、半端じゃない忙しさだった。自宅へは、隣家の方々が手伝いに来てくださったが、普段お付き合いのない方々ばかりだし、私も結婚して実家を出てしまっているしで、大変ありがたいのだが、どう手伝いをお願いしてよいものか、どのようにお返し、お食事、精進落としをすればいいものか迷った。



私たちの場合、(1)葬式にまったく不慣れであった事。(2)準備がまったく出来ていなかった事。(3)私も当時28歳と若かった事。母はショックで気が動転し、弟は成人していなかったし、年子の妹と2人でなんとか仕切ってやらなければならず、ただ無事に葬式をあげようと、それだけで、気持ちの余裕がなかった事。(4)お手伝いの隣家の方々への失礼・無礼をしてはいけないと気負い過ぎ、親戚への配慮が欠けた事。(5)互助会の方々との細かい打ち合わせが、上手に出来てなかった事ーなど、いろいろな要因があり、それらが一気に吹き出した。たとえば「『霊柩車は会館に行くまでの、タクシー代わりに使ってもらってよい』との互助会担当者の説明を受けていたので、ためらいもせずに従った結果、父方兄弟の大ひんしゅくを買い、今もって付き合いは、ない。

私は、身も心もボロボロになり、フォローしてくれる人もなく、ただ『お葬式っていったいなんなのだろう?』と、問う結果となった。やはり、周りに何と言われようと常識として、一通りのことは知っておいたほうがよいと、肝に銘じた。父の葬式は、私に人の心根とは? と教えると共に、常識ある人として生きるスタートを切らせてくれたのだと思う。